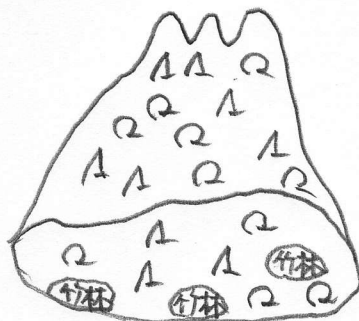


協働で進める森林の保全について

● 現状

○ 森林の状況



里山... 多くの私有林

昔 (50年くらい前)

林業が成り立ち
かつ公益性の高い森林

木材が売れない → 林業従事者減
竹の子が売れない
竹材が必要となくなる → 放置



← - - - - 対策



今 (平成に入ってから)

林業が成り立たない
公益性が低い森林

・対策: 国... 緊急間伐 特定間伐 各種事業 + 国民の啓発
温暖化防止対策 ex. 林業従事者を増やす
中山間地対策として住民の呼びかけ
各自治体... 森林環境税を投入し私有林の保全にも投入
各自治体で徴収の多少がある。山の稜線が明確に分かれる。

- 森林の現状と森からの恩恵 (金額的なものでの紹介)
- 福岡県と佐賀県を対比 ← 森林環境税、林業従事者の多少による違い
- 参加者の捉えと現状の紹介



課題の抽出

○ なぜ協働が必要なのか ←

現状では行政だけに頼れないこと。
森林づくりを50年100年単位で考えた場合
行政だけでやはり市民が力を併せねばなら
ないことも大事 ⇒ つまり協働が大事

改善 提案

- 誰とどのように協働していくのか ← 1 行政との協働 (政策提言含む)
2 市民(企業含む)との協働
- それをどのように進めていけば良いのか ← いろいろ基盤を進めていこうとの紹介

※ 私の結論

多くの国民 (市民、CSO団体、企業) が森林の荒廃を我が事として
捉え、このために自分ができるところをしていく。
昔のようにそこに住む市民 (住民) が山に入り、山を活用し、きれいにする。
こうしていくと、このことが代々受け継がれていく。
それを行政がサポートする。一歩ずつ進めていく。